

海外投融資情報財団(JOI)について

海外投融資情報財団(JOI)は、我が国企業の海外直接投資の動向、海外におけるエネルギー・インフラ・資源開発、新興国の投資環境とビジネス機会等に関する情報を、当財団が主催するセミナー、調査研究、機関誌やウェブサイトを通して、会員企業および一般の皆さまに提供します。かかる活動を通して会員相互の情報の交流、ネットワーク拡大を図り、我が国企業の海外直接投資・国際ビジネスの促進に寄与します。

設立 平成3年12月16日(大蔵大臣認可):国際協力銀行(当時、日本輸出入銀行)・商社・製造業企業、公益事業会社、金融機関等170社の出捐により設立
平成22年11月1日(一般財団法人移行)

会員 本邦主要メーカー、建設・エンジニアリング会社、商社、通信・電力・ガス会社、金融機関、内外弁護士事務所、会計事務所、コンサルティング会社、各国大使館等 約200先(平成29年7月現在)

会員制度(賛助会員)のご案内

当財団会員にご入会いただきますと、以下のサービスを受けることができます。

- (1) 当財団が主催、後援、協力するセミナー(年間60件程度)への無料招待
- (2) 会員と当財団によるセミナー共催
- (3) 機関誌「海外投融資」(隔月発行)の無料配布
- (4) 当財団ウェブサイト上、会員限定公開となっている、セミナー動画・配布資料、機関誌「海外投融資」記事、レポート、「国際金融機関便覧」等の閲覧
- (5) 受託調査(独自のネットワーク活用による情報収集を通じた報告書の作成)(有料)

海外投融資

Vol.26 No.4(通巻154号)
2017年7月25日発行

発行
一般財団法人 海外投融資情報財団

発行人
本間 学
〒102-0073
東京都千代田区九段北二丁目
3番6号 九段北二丁目ビル
TEL. 03-5210-3311(代)
FAX. 03-5210-3456

制作協力
(株)エディポック

*本誌に掲載されている記事の内容や意見は、海外投融資情報財団の公式見解を示すものではありません。

●禁 無断転載

All rights reserved. No part of this magazine may be reproduced in any form or in any means without written permission from the publisher.
©Japan Institute for Overseas Investment Printed in Japan



● JOI周辺の神社

財団近辺(九段北・富士見エリア)で神社といえば特に靖国神社が有名ですが、そのほかにも由緒のある神社がいくつかあります。今回はそれらを簡単にご紹介します。

まずは東京大神宮。主祭神は天照大神で、東京でお伊勢参りができる遥拝殿として明治13年に日比谷において創設。大正天皇(当時は皇太子)の宮中ご神前でのご婚儀(明治33年)に習い、一般向けに神前結婚式を最初に始めたことで知られています。飯田橋に近い現在地には、関東大震災後の昭和3年に移転したようで、縁結びのご利益を願う女性などで大変賑わっており、都内でも人気パワー・スポットのひとつになっています。

さらに築土神社。参道は靖国通りに併行する中坂を上る途中左手にあります。靖国通りからは上り坂途中右手の「北の丸スクエア」内の遊歩道からもアクセスできます。940年(天慶3年)、京都の七条河原にさらされていた平将門の首を納めた首桶を御神体として、現在の千代田区大手町の将門塚付近に津久戸明神として創建され、以来、将門信仰の象徴的神社だったようです。名称はその後の移転に伴い田安明神や築土明神と変わり、明治7年に「皇国史観」の影響で、天照大神の孫である瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)が主祭神、将門は菅原道真とともに相殿(あいどの=合祀)神である築土神社となりました(当時は現在の新

宿区筑土八幡町に所在)。しかし、御神体の首桶は太平洋戦争の戦災により社殿もろとも焼失。現在地には1954年に移転してきたものです。

そして世継稲荷神社。田安稲荷として1441年(嘉吉元年)に創建。主祭神は倉稲魂神(ウガノミタマ)。今は上記の築土神社の兼務社として同神社と同じ境内にひっそりとありますが、江戸時代に徳川家康江戸入城の折、二代将軍秀忠が当社境内の橙の木を見て「代々世を継ぎ栄える宮」と賞賛したことで、以来、世継稲荷といわれるようになったそうです。今も橙の木がちゃんと植わっています。1862(文久2年)に14代将軍家茂の正妻・和宮が子宝を願って参詣し、現代も子宝や後継者を願う人々に信仰されている由。



築土神社拝殿(筆者撮影 2017年6月22日)

(調査部長 山本 拓)